

発行所  
**カトリック福江教会**  
 広報委員会  
 五島市末広町 3-6  
 ☎ 0959 (72) 3957  
 ●ホームページ●  
<http://fukuechurch.jimdo.com>

# 元和の大殉教

主任司祭 **中村**

**満**

今月、九月十日は元和の大殉教から四百年になる。西坂で五五人が殉教した。教区主催による殉教四百年の記念行事が九月十日、西坂公園と中町教会で行われた。コロナ禍のため各地からの参加は見送られ、少し寂しさを感じるが、記念の年、記念の日であることを各自心に銘記すべきであろう。西坂の殉教者を含む日本二百五福者殉教者の記念日は、毎年この十日である。

げんな  
**元和の大殉教**  
**400周年記念祭**  
 ~主の復活を告げるために~  
 (黄金フランシスコ)

日時: 2022年9月10日(土)

13:00 西坂公園 記念式典  
 ロザリオを唱えながら通礼

14:00 中町教会 元和の大殉教400周年記念ミサ

日本二十六聖人記念館 Facebook より

元和の大殉教は、日本全体で考えると、東京、京都、長崎での元和年間の三つの大殉教を指している。元和年間は一六一五年七月から一六二四年二月までであるが、京都では、一六一九年十月六日に正面河原の加茂川で、大人四二人、子供十人の五二人が火あぶりの刑で殉教した。長崎では一六二三年九月十日、西坂で五五名が、斬首と火あぶりの刑で殉教した。江戸では、品川の芝で一六二三年十二月四日、宣教師と信徒の五十人が、火あぶりの刑で殉教した。

長崎西坂での殉教が、一六二二年というと、一六一四年の江戸幕府による全国に亘る禁教令の発布から八年後ということになる。禁教令下にありながらも信仰を守り、信を貫いていた宣教師や信徒たちがいたことを思い起こすべきだろう。

長崎の元和の殉教者は、一八六七

二〇五福者殉教者に列せられた。ちなみに、二〇五福者は、長崎での殉教者一五一人、大村二八人、有馬九人、小倉五人、島原四人、江戸三人、その他、雲仙、田平、杵岐、京都、仙台各一人の二〇五人である。国籍は、日本が一五三人、スペイン二四人、ポルトガル五人、イタリア五人、メキシコ三人、オランダ、ベルギーが各一人、豊臣秀吉の朝鮮侵攻で朝鮮半島の出身者が一三人で、司祭一三名、修道者二〇名がいた。また、女性が一四人、少なくとも六人は子どもであった。

一九六八(昭和四三)年、列福式から一〇〇周年記念にあたり、「斬罪小屋」の立て札があった大村の殉教地、放虎原の処刑場所に、大村の信徒たちによって顕彰碑が建立されている。

時と共に殉教者たちの記憶が薄れゆくが、聖人、福者に限らず、信仰に殉じた先達たちがいたことを思い起こし、その信仰の生涯を訪ね歩く日々を少しでも持ちたいと願っている。コロナ禍の中、出かけることに躊躇するが、まずは机上での座学に励まなければならぬ。福者たちの数奇な生涯には、命を捧げた信仰の熱が未だにこもっている。

## お後がよろしくお祈り

助任司祭 **稲田祐馬**

大神学生時代、寄席に行くのが好きでした。これは、コレジオ時代の養成の神父様からの入れ知恵で、暇なら寄席か美術館に行つとけと、朝遅くに出かけて、そのまま晩までいることができるというのが、一つの理由でした。あまり落語には興味がありませんでしたが、とりあえず行ってみるとハマってしまいました。昼の部と夜の部があって、私は圧倒的に夜の部派でした。夜の部の方が落語家さんたち同士のからかい合いや、前の人がやった演目の場面を自らの演目にちよつと取り入れたりして、「ライブ感」というのでしょうか、そういうのがありました。夜の部に行くならぜひトリまで見たい! また、どうせ同じ料金なら昼の部の最初から見たい! という思いから、一日自由にできる外食日を狙ってましたが、そもそもその日が少なく、また、他の用事が入ったりして、数回しかいけませんでした。

それまでは落語家といえば笑点メンバーでしたが、寄席に行ってみると知ってる名前は全く無く、期待せず雰囲気だけでも味わって帰ろうと思っていましたが、さすがプロで、

引き込まれました。「時そば」を聞いて、そばが食べたくなり、立ち食いそばを食べて帰った時もありました。話を聞いて、たまらずそれをしたくなる、プロの話を味わいました。思えばイエス様も、プロの話術とはあまり言いたくないですけども、イエス様のお話を聞いた人は、たまらず祈りたくなる、賛美したくなる、愛したくなる、そんな感じだったんだろうなと思います。私も説教する時は、そういう域には全然達しないけれど、でもせめて説教のすぐ後にある信仰宣言はみんなが心を込めて唱えなくなる、そんな説教ができたらと常々思っております。

一回神学校の教話で『小言念仏』という落語の演目を取り上げたことがあって、紹介したいと思えます。朝早くからお経をあげながら小言を言う男の話です。仏壇のホコリや供えられたお花のしおれ具合など、気に食わないことをお経の合間に見つけては小言をぐちぐち言い、お経を唱えながら赤ちゃんをあやし、どじょう屋を呼び、みそ汁の具として生きたどじょうを購入してきた女房に、仏教は殺生は禁じられているはずなのに、お経を唱えながらどじょうの絞め方のアドバイスをし、それがうまくいったと聞くとしまいにはざまあみろとほくそ笑む、とそんな

滑稽話です。それを受けて、お経を唱えながらも、思いは教えと全然違うところにいつている、これが偽善だ、という教話をしました。そういう書きながら思い出しましたが、コレジオの卒業式の時に当時の主任神父様からお話いただいたのは、言行一致についてでした。司祭館より自戒を込めて。

## ご注意ください

助任司祭 西田祐尚

福江小教区の皆様、茹だるような暑さが続く中、如何お過ごしでしょうか。私が本原稿を認めている一週間ほど前(執筆:八月十七日)、外の気温が三五度と表示されたのを覚えています。今、残暑厳しい中にあるとは思いますが、お体を大切にされてください。そして、暑さ厳しい中にありますが、炎天下でお仕事をされている皆様にも、心から感謝申し上げます。

さて、本文のタイトルは「ご注意ください」ですが、私が皆様に伝えたいこと、それはそう!「暑さにご注意ください!」ではありません。実は、今一度、皆様に注意して頂きたいことがあります。それは、新興宗教です。安部元首相の襲撃事件が

起こり、「国会議員の多く(主に自民)が旧統一教会と接点を持っていた」(八月十六日 文春オンライン)と昨今、旧統一教会が問題になっていきます。日本でも霊感商法による高額な物品の販売や信者への多額の寄付を強請し、家庭崩壊に陥る人々が増えたことにより、今も昔も、要注意団体として注目されてきました。旧統一教会は現在三つの組織に枝分かれし、現在の世界平和統一家庭連合がその一つです(他二つの組織の名称は不明)。そして、自分たちを正当なキリスト教の一派であると今も釈明しています。が、一九八五年、日本の司教団は、この旧統一教会がキリスト教でないことを明らかにしています。日本カトリック司教団「世界基督教統一神霊協会に関する声明」(<https://www.cbj.catholic.jp/> 1985/06/22/4022) 1985年6月22日 定例司教総会において。

信徒の皆様にお願ひしたいのは、彼らは、非常に巧妙な話術等で自分たちの聖書講座やセミナー等に勧誘してきますので、絶対に参加しないようにお願い申し上げます。また、統一教会の他にも、様々なキリスト教を名乗る新興宗

教が聖書講座やセミナー等への参加を呼び掛けてきます。すでに長崎教区内の司祭館、信徒宅に「聖書講座に参加しないか」と電話があったと報告が、いつか上がっておりますし、福江の司祭館にも二か月ほど前に掛かってきております。ぜひ、皆様、それぞれご注意ください。もう、お願い申しあげます。最後に今特に注意すべきキリスト教と自称する新興宗教の名前を挙げておきますので、ご参照ください(特に、都会などにご家族がいる場合、教会から足が遠のいている方などが、騙されて勧誘される可能性があります。今一度、注意の徹底をお願いします)。

- ・新天地
- ・エホバの証人(ものみの塔)
- ・聖末日聖徒イエス・キリスト教会(モルモン教)
- ・摂理
- ・クリスチャントゥデイ

以上が今、注意すべき団体ですが、この他にもここに書ききれない団体等が、勧誘してくるケースも考えられますので、まずは、不審に感じられたら、司祭にご相談ください。また、都会のご家族には、お近くのカトリック教会の司祭に尋ねるよう、ご連絡をお願いします。

「皆様、新興宗教にご注意ください!」

# 中島神父様 銀祝のお祝い式



七月十八日(祝)午前十時より福江教会にてミカエル中島誠志神父様の銀祝のお祝いミサが執り行われた。ミサには下五島の教会の司祭や福江教会出身の司祭も帰郷して参列し、多くのシスターや信徒も参加する中で行われた。

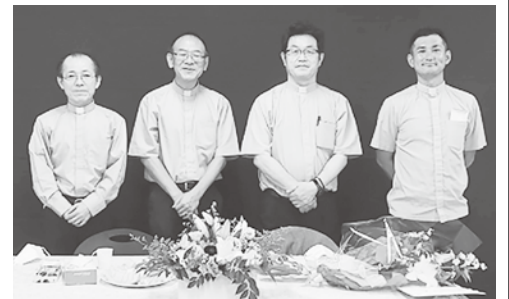
ミサの途中で司式する息子の姿を、手を震わせながら写真に収めようとするお父様の様子を垣間見ることが出来た。その姿はとても嬉しそうで、胸を打つものがあつた。



ミサの終わりにお祝いの式が行われ、信徒代表として

て神学校時代の同級生である浜口副議長より学生時代の思い出や当時のエピソードを交え「中学、高校時代を共に過ごした仲間たちも…中島神父様の活躍を見ながら、自分事のように誇らしく思っています。」「無理はせず、自分らしさを大切に、一步一步、神様への歩みを続けていってほしいと願っています

司祭叙階 25周年 ミカエル中島誠志神父様 銀祝 おめでとう



左から、福島神父 鍋内神父 中島神父 岩下神父 福江教会出身の神父様が揃いました

## \*ミカエル 中島誠志 神父様25年のあゆみ\*

- 1997年 2月3日 浦上教会にて司祭叙階
- 同年 浦上教会 (助任)
- 1998年 飽の浦教会 (長崎市:助任)
- 2001年 長崎カトリック神学院
- 2005年 奈留教会 (奈留町:主任)
- 2006年 山田教会 (平戸市:主任)
- 2013年 大野教会 (長崎市:主任)
- 2015年 日本カトリック神学院 (東京)
- 2019年 3月~浜脇教会 (協働司祭)
- 5月~天神協会 (佐世保市:主任)
- 9月~三浦町教会 (佐世保市:主任)

ます。」とのお祝いの言葉があつた(ちなみに当時の指導司祭は中村神父様だったとのこと)。

中島神父様は「まずは友人の浜口くんありがとう。いっぱい語りたいたいこともあると思います。根本的な所は変わりはないが、学生時代からはだいぶ変わりました。」「二五年で体はガタガタ、ですが日々頑張っています。無意識に頂いていたお恵みを今は感謝しながら過ごしています。二五年いろうんな所に派遣されていきました。ここにとどまれ、これを通じて行くしかないと言いつつ聞かせながら、これからの司牧を続けていきたいと思えます。」とお礼の言葉を述べられました。

# 西田神父様 霊名のお祝い



去る六月十二日(日)二番ミサにて、パドアの聖アントニオ西田祐尚神父様の霊名のお祝い式が行われた。お祝いの言葉として、浜口副議長と、子供代表では戸村伊織君が挨拶をした。戸村君は「神父様は、ぼくたちにイエス様や教会のことをたくさんお話ししてくださり、教えてくださいます。これからもイエス様の協力者として、わたしたちを導いてください」「神父様が元気に聖務に励まれますよう、おいのりしていただきます。」との言葉を贈った。

西田神父様は、「お祝い頂きありがとうございます。特に伊織くんが挨拶はとも感動し、うれしくなりました。信徒を代表して浜口さんもありありがとうございます。」「去年も言



七月二日から二三日に下五島地区小・中学生合同黙想会が福江教会にて行われた。

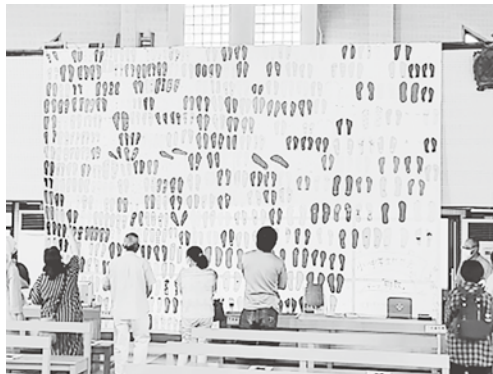


### 地区子ども 合同黙想会 7月21、23日

小学校低学年と高学年、中学生と日程は異なるが、テーマは共通で「殉教」について学んだ。

いましたが、祝う側からお祝いされる立場になって、ますます頑張らねばなあと思います。未熟な点がまだまだありますが、みなさんに支えられて福江教会のため、また司祭としての歩みを進めていきたいと思えます。」と述べられた。

またミサ終了後、信徒会館にてやさやかなお茶会が（コロナ対策として換気等を充分配慮しながら）おこなわれた。



子供たちが完成させた作品は、聖堂後方に展示された。実寸大のスケールで牢屋の狭さと拷問の苛烈さを実感することが出来た。



似顔絵の出来栄えは？  
背景右に出身教会の飽の浦教会、左に福江教会が描かれています。

福江教会からは小学生三八名、中学生一一名が参加した。

黙想会では、始めに二十六聖人殉教についての動画を視聴した後、西田神父様の講話があり、次に各教会単位で作業を行った。福江教会は、久賀島の牢屋の窄殉教の紙芝居と中村神父様の講話があった。牢屋の窄

## 気づいてますか？ お祈りポスト

福江教会の聖堂出入口付近に設置されている写真のポストに気が付いてますか？ お告げのマリア会福江・聖家族修道院のシスター方が設置されたこの「お祈りポスト」にお祈りの意向を書いて投函すると、皆さんと一緒にシスター方がお祈りしてくださいます。



個人の意向もシスター方が共に祈って下さっていると思うと、より心強く感じられるのではないのでしょうか。是非ともご利用ください！

とは、一八六八年（明治元年）に久賀島内の信徒たちが捕らえられ、残酷な責め苦を受けた殉教のことである。信徒たち二百名余りが、長期間にわたり閉じ込められた十二畳ほどの狭い牢を模造紙で表し、子どもたちが足型を作成し、中学生の部で完成させた。

## 編集後記

広報誌「こころ」第二三四号を発行しました。

この七月から八月にかけてコロナの第七波に見舞われ、過去最多の感染者数を何度も更新する状況が続きました。重症化率は低いものの感染力が強いため、公開ミサやいくつかの行事を中止せざるを得ない状況となりました。終息がなかなか見通せない中ですが、少しでも早く元の信仰生活戻ることを願ってやみません。

さて、福江のコンビニや小売店でも徐々にセルフレジを導入する店舗が増えていきます。慣ればそれなりに便利なセルフレジですが、コロナ禍で人と話す機会が減りがちな中さらに店員とのやり取りまでなくなるのは何となく寂しい感じもします。気を使わなくて済むという意見もあるでしょうが、言葉のやり取りの中で相手を気遣う術を学ぶものだと思いますし、年を重ねるごとにその大切さをひしひしと感じています。

教会においても同じかもしれません。ミサの前後に少しでも信徒同士の会話があたり、行事や活動での共同作業を通して関わる事を大事にしていきたいものです。（N・H）